



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |

かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL

TOPICS ● トピックス

公立穴水総合病院への 災害派遣活動

とてつじ
常虹の滝(富山市)

CONTENTS ● もくじ

TOPICS	公立穴水総合病院への災害派遣活動	P.01
特集	新ユニフォームの紹介	P.02
	令和6年度 第1回市民公開講座	P.02
	日下先生の診察室から	P.03
	診療コラム	P.04
	病院★ニュース	P.05
	病院からのお知らせ掲示板	P.06
	まちかど情報	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。



公立穴水総合病院への災害派遣活動

1月1日の令和6年能登半島地震において甚大な被害に見舞われた石川県穴水町への支援活動として、当院で災害派遣チームを発足し、5月21日に公立穴水総合病院を訪問し、穴水町仮設住宅（川島第2団地D）において、避難者の方への活動を行いました。災害派遣チームのメンバーとして、伊藤 透病院長をはじめ医師、看護師、理学療法士、作業療法士、事務員、運転手を含め9名が参加しました。

午前中は仮設住宅を4か所個別訪問し、避難者の方の悩みを聞きながら健康指導を行いました。午後からは、仮設住宅内にある集会所に約15名の避難者が集まり、胸部心臓血管外科の小畑貴司医師から、「生活不活発病の予防」と題した講演、リハビリテーション部の藤井智子副技師長から、「エコノミークラス症候群の予防体操」と題した体操指導、谷畑祐子感染管理認定看護師から、手指衛生に関する指導を行いました。

仮設住宅への入居により生活環境が大きく変化し、周囲の人との交流や体を動かす機会が減ってしまった避難者

の方々へ、できる限り運動や周囲とのコミュニケーションをとる事を心がけ、健康維持に努めてほしいと呼びかけました。

今回の災害派遣活動の経験を活かし、今後も被災地への支援活動を行っていきたくと考えております。



災害派遣チームと公立穴水総合病院 島中病院長（前列左から2人目）



仮設住宅の訪問

新 ユニフォーム の紹介

今年度から、医療スタッフのユニフォームが一部変更となります。

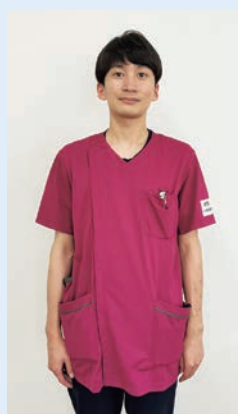
新ユニフォームは、金沢医科大学病院と同じデザインを採用しており、金沢医科大学の職員であるという意識を持って業務に励んでほしいという思いが込められています。看護師と薬剤師については、一足早く数年前に金沢医科大学病院と同デザインを採用していましたが、他の職種についても今回変更することとなりました。

これまでは各職種でいろいろなデザインのユニフォームを着用していましたが、統一感を持たせるため、医療技術職の複数職種で同じユニフォームと着用することにしました。袖口についている金沢医科大学のロゴマーク入りワッペンには、部署名が記載されており、同じユニフォームでも部署の区別ができるような仕様となっています。

新しいユニフォームに身をつつみ、職員一同気持ちを新たに「安全で質の高い医療」の提供に努めてまいります。



部署名ワッペン



医療技術職(統一)



管理栄養士



歯科衛生士



ソーシャルワーカー



6月22日に、今年度第1回目となる市民公開講座を氷見市芸術文化館で開催しました。今回は、「腎臓を守ろう！薬を適切に飲んでいますか？」をテーマに、腎臓内科の原口貴敏医師と薬剤部の須田真弘薬剤師が、それぞれの専門分野の観点から講演を行いました。

はじめに、原口医師が「慢性腎臓病を知ろう」と題し、腎臓の働きを説明した後、慢性腎臓病は徐々に進行する病気で、一度悪化した腎機能を元に戻す方法はないため早期発見・早期治療が大切であり、定期的に健康診断を受けることが重要であると解説しました。続いて、須田薬剤師が「薬



を正しく飲んでいますか？」と題し、薬が体の中を巡る流れを説明した後、薬の血中濃度が低いと薬の効果が十分に表れず、高すぎると副作用が出やすくなるため、指示された用法や用量を守ることが大切であることを解説しました。また、飲み忘れを防ぐ方法の1つとして、一包化があることを紹介しました。

今年度は、9月14日に「第2回市民公開講座」の開催を予定しているほか、「糖尿病教室」や「夏休み親子ふれあい医療フェスティバル」など、市民の皆様の健康増進に役立てていたような取り組みを継続していきますので、ぜひご参加ください。

第1回

市民公開講座

令和6年度

くさか
日下先生の
診察室から

消化器内科講師

日下 一也

KUSAKA
KAZUYA

今年4月に消化器内科に赴任しました日下一也です。富山市出身で、このたび氷見市に引っ越してきました。

20〜30代の頃に金沢医科大学病院の消化器内科、総合診療科で勤務していたことがあり、まだ右も左も分からなかった当時、当院CEOの神田教授や



病院長の伊藤教授、消化器内科科長の浦島教授をはじめ、現在当院に勤務されている多くの先生方に厳しくも温かくご指導いただいたのが思い出されます。

私はずっと急性期病院に勤務していたわけではなく、看取りを含めた24時間対応の在宅医療にも携わってきました。当院を受診される患者さんの中にも、検査や治療を受けられた後、かかりつけの先生の元で治療を継続される方も多く、急性期病院と在宅医療での経験が、氷見市において病診連携の一助となればと思っています。

消化器内科では、消化管および肝胆膵と消化器病全般を対象としています。胃および大腸内視鏡では高画質な画像強調処理システムおよび拡大内視鏡での観察を標準的に行い、苦痛の軽減が特徴である経鼻内視鏡も導入しています。金沢医科大学病院と連携し、超音波内視鏡による胃・大腸・胆道・膵

疾患の精査、食道上皮内癌・早期胃癌・早期大腸癌の内視鏡的治療も施行しており、当院開設以来数多くの治療実績があります。総胆管結石に対する内視鏡的除去など胆道・膵疾患についても内視鏡診断・治療を行っています。また、消化器系腫瘍の治療、特に化学療法では新規の分子標的薬や免疫療法が登場していることから、当科でもこれらの新しい治療を視野に入れ診療を行うと共に、消化器外科や放射線科とも連携して集学的な治療を実施しています。

今後も氷見市の地域医療に少しでも貢献したいという思いがあり、氷見での治療を希望されている患者さんには最善の医療ができるように日々心がけてまいります。今後ともよろしくお願いたします。

日下一也★略歴

【学歴・職歴】

1993年 秋田大学医学部卒業
1993年 秋田大学医学部附属病院 放射線科
1994年 市立秋田総合病院 放射線科
1996年 秋田赤十字病院 放射線科
1996年 金沢医科大学病院 消化器内科
2002年 金沢医科大学病院 総合診療科
2006年 医療法人ホスピアー 浦田クリニック、うらた病院
2010年 金沢医科大学医学部非常勤講師(2017年3月まで)
2024年 金沢医科大学氷見市民病院 消化器内科 内視鏡センター

【資格等】

博士(医学)
日本内科学会総合内科専門医
日本消化器病学会専門医
日本消化器内視鏡学会専門医



診療コラム

病院を支える各部門をご紹介

感染対策室

感染対策室は『病院感染に関する問題を迅速に解決するよう現場をサポートし、患者及び訪問者、医療者の安全を確保する』ため、2022年6月医療安全対策部に設立されました。メンバーは医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、リハビリ職員、事務員から構成されています。対策室の主な活動としては2つあり、1つは感染対策チーム(CCT)による週1回の院内感染対策の実施状況確認や感染発生状況の調査と分析及び状況に応じた介入と指導であり、もう1つは抗菌薬適正使用チーム(AST)による細菌培養結果や指定抗菌薬の使用状況の確認と適正な抗菌薬使用の推進です。さらに、地域連携業務として年4回氷見市の医療機関や介護施設との感染に関連する検討会の実施や意見交換、県内の他病院のICTや私立医科大

学分院との相互ラウンドによる院内感染対策の評価・改善を行っています。

ここ3年ほどはCOVID-19対策に追われ多忙な時もありましたが、多職種で連携しながら乗り越え、院内で一番仲の良いチームと自負しています。

感染対策防止に一番効果的なのは手指衛生です。皆さん、手洗いの5つのタイミングを思い出し、必要な場面で手洗いを実施して感染を防ぎましょう。



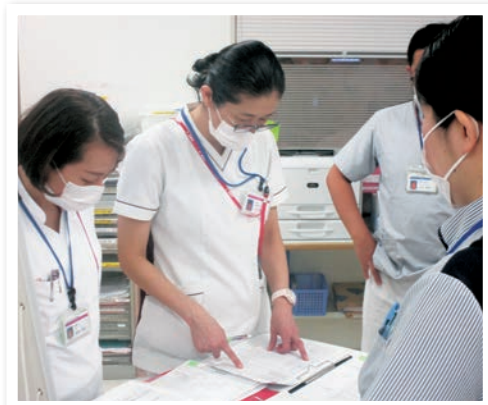
感染対策室のメンバー

患者相談支援窓口

皆様こんにちは。ご自身やご家族が病気になるたとき、誰もが不安になりますよね。病気や入院生活に対する不安、これからの生活や介護サービスのことなど、わからないことがたくさんあると思います。「どうすればいいのかわからない」「そんな時は当院の「患者相談支援窓口」をご利用ください。病気や医療福祉制度の手続き・診療費に関する相談、診療情報開示や個人情報保護など医療安全に関する相談、感染対策に関する相談、お薬に関することや栄養食事に關する相談など、さまざまな不安や疑問に、相談員が対応し支援させていただきます。

対応時間は、平日(月～金曜日) 8:45～17:00、土曜日は8:45～12:45です。

些細なことでも構いませんので、どうぞお気軽にお訪ねください。



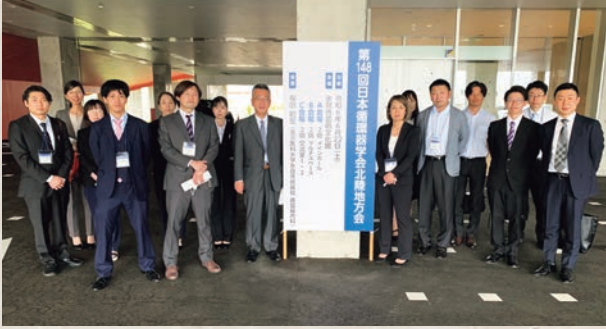
第148回日本循環器学会北陸地方会

日程 令和6年6月22日(土)
氷見市芸術文化館

6月22日に氷見市芸術文化館において、第148回日本循環器学会北陸地方会が開催されました。

今回の学会は当院循環器内科の福田昭宏教授が会長を務め、福田教授の強い希望により、氷見市での開催が実現しました。氷見市芸術文化館のメインホール、マルチススペース、交流室において教育講演、セミナー、一般演題発表など多くの学術講演が行われました。当日は、北陸内の多くの病院から200名を超える医師およびメディカルスタッフが参加し、多くの演題発表が行われ、演者の熱心な発表に加えて、参加者からの質問も多くなり、活発な討論が行われました。当院からは、循環器内科の黒木健伍医師、初期臨床研修医の桶家由樹子医師が発表を行いました。

開催に際しては、氷見市での開催は初の試みとあって、スタッフの運営に慣れない点も多く不安もありましたが、打合せを重ね入念な準備を行い、無事盛会のうち開催することができました。本会にご協力を賜りました関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



第24回富山県公的病院医療安全研究大会

日程 令和6年6月29日(土)
黒部市国際文化センターコロシアム

6月29日に「第24回富山県公的病院医療安全研究大会」が黒部市国際文化センターコロシアムにて、富山県公的病院長協議会の主催、富山県医師会、黒部市の後援のもと開催され、一般演題、ポスター発表の後に特別講演が行われました。

当院からは、一般演題において、M部部の棚辺 凌臨 床工学技士が「災害による透析への影響から見えてきた今後の課題」と題し、能登半島地震の際に血液浄化センターで行われた透析治療と対応、今後の課題について発表を行いました。

特別講演では、京都大学医学部附属病院 松村由美 医療安全管理部教授から、「ダブルチェック再考：有効なダブルチェックを行うために」と題し、医療者にとって必須となる確認行動の原則、ダブルチェックの理論について講演がありました。ダブルチェックは医療者の多くが再発防止策として有効と考えているが、確認を多重化しても依存が高まり精度が下がることや、複人数のチェックは作業効率が上がらず、エラー検出率の低下が示されており、ダブルチェックの対象を絞り、ひとりで確認する方法を取る発想の転換を提唱されました。また、確認行動はプロフェッショナルリズムと捉え、専門家として理論を整理して意識することが必要だと解説されました。全会を通して活発な質疑がなされ、盛会裡に閉幕しました。



社会に学ぶ『14歳の挑戦』

期間：令和6年7月1日(月)～7月5日(金)

7月1日から5日までの5日間、北部中学校と南部中学校の2年生合わせて5名が当院での職場体験に参加し、各部門のスタッフが用意したプログラムで業務について学び、体験しました。活動中は、スタッフの話に真剣に耳を傾け、メモや質問をするなど積極的に取り組んでいました。

今回も、医療職に就くことを目標としている生徒が多く、普段なかなか立ち入る機会のない医療現場を肌で感じたことで、医療職を目指す決意を新たにされた様子が日々の活動日誌から伝わってきました。また体験を重ねるにつれ、病院ではさまざまな職種が広がった様子も見られました。5日間という短い時間でしたが、参加した5名の今後のさらなる飛躍を職員一同祈念しています。



病院からのお知らせ掲示板

● 医師異動・着任のお知らせ（整形外科）

整形外科に、7月1日付で畠中医師、8月1日付で北島医師が着任しました。
常勤医師4人体制で、今後も患者さんに寄り添った質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。よろしくお祈りいたします。

【着任】



きたじま ひろのり
北島 宏規 医師



はたけなか ちえ
畠中 千枝 医師

【外来診療担当表】(8月1日～)

		月	火	水	木	金	土
午前	1診	北島	北島(初診)	北島	畠中(初診)	北島(初診)	第1～4週 交替 ※第5週休診
	2診	清水(初診)	清水	清水	清水	畠中	
	3診	廣村	畠中	廣村(初診)	廣村	廣村	
	4診			畠中			
午後		手術	手術	手術	手術	手術	

【退任】

佐々本文嗣 医師(6月30日付)
山口 舜也 医師(6月30日付)

● ヘリカルCT 肺がん検診のお知らせ -今年から当院でも受けられるようになりました-

当院では、令和6年度から、肺がん検診においてヘリカルCTによる検査を実施しています。
ヘリカルCTは、立体的に肺の内部を撮影し、細かい気管支や血管を鮮明に映し出すことができるため、胸部X線では見つけにくい病巣や、直径1cm以下の小さな陰影まで確認できることが期待され、肺がんの早期発見にきわめて有効です。
喫煙歴がある方、家族に喫煙者がいる方、咳・痰などの症状がある方には、ぜひお勧めしたい検査です。この機会に、ぜひ肺がん検診を受けましょう。
※ヘリカルCT肺がん検診を受けられる方は胸部レントゲン検査を受けられません。
また、妊娠中の方やその兆候のある方は検査できません。



■期間 令和6年7月1日(月)～9月30日(月) ■費用 一般 3600円 節目年齢 3100円
■申込・問合せ先 健康管理センター ☎0766-74-1900(内線1800)フリーダイヤル0800-200-5134

● 令和6年度第2回 市民公開講座のご案内

参加
無料

市民の皆さんの健康増進に役立てていただくことを目的に、当院の医師らが、病気や医療についてわかりやすくお話しします。ぜひご参加ください。

- 日時 令和6年9月14日(土) 13:30～16:00(受付12:45～)
- 会場 氷見市芸術文化館 ホール
- 申込方法 メール・郵送 ※氏名、年齢、住所、電話番号を記載し、下記宛てに送付してください。
(郵送)〒935-8531富山県氷見市鞍川11130 金沢医科大学氷見市民病院 総務課 宛
(メール) kh-soumu@kanazawa-med.ac.jp
- 申込×切 令和6年9月6日(金)
- 問合せ 総務課 ☎0766-74-1900(内線2024)

■メインテーマ

『専門医に学ぶ身近な病気のはなし』

- 座長 耳鼻いんこう科 科長 坪田 雅仁 医師
講演① 演題「エコノミークラス症候群を防ぐには」
講師 胸部心臓血管外科 科長 小畑 貴司 医師
講演② 演題「誤嚥性肺炎について」
講師 呼吸器内科 山田 真也 医師

管理栄養士のヘルシーレシピ

食欲が落ちる夏でも、さっぱりと食べられる夏バテ防止レシピをご紹介します。

塩レモンの冷しゃぶうどん <作り方>



栄養量
エネルギー557kcal
たんぱく質19.3g 塩分2.3g

- ①お湯に鶏がらスープの素を溶かし、(A)を入れて混ぜ、冷蔵庫で冷やしておく。
- ②鍋にお湯を沸騰させ、豚をしゃぶしゃぶし、火が通ったら水で冷やす。
- ③鍋にお湯を沸かし、うどんを茹でて冷水で冷やす。
- ④器にうどんを盛り、1をかける。
- ⑤適当な大きさにちぎったレタス、2の豚肉、かいわれ大根、スライスしたレモンをのせて、ごま油を回しかけ、コショウをふって完成です。

<材料> 1人分

うどん	1玉
豚肉(しゃぶしゃぶ用)	70g
レタス	1～2枚
レモン	5枚(スライス)
かいわれ大根	適量

ごま油	適量	
黒こしょう	少量	
お湯	100ml	
鶏がらスープの素	小さじ1/2	
(A)	塩麴	小さじ2
	レモン汁	小さじ2

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに務めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報には厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話ください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

まちかど情報

第53回全国中学校ハンドボール大会

令和6年8月19日から22日にかけて、氷見市ふれあいスポーツセンター及び、氷見市立南部中学校にて「第53回全国中学校ハンドボール大会」が開催されます。

ハンドボールはめまぐるしく攻守が入れ替わり激しい攻撃や守備でコート走り、流れるような早いパス回しからの空中でのジャンプシュートなど連携プレーとスピード感が見どころのスポーツです。

氷見市は、小・中・高校生はもちろん、保育園や幼稚園児から大人まで、ハンドボールの競技人口も多く、また「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」いわゆる“春中ハンド”を長年開催するなどハンドボールのまちでもあります。そのようなハンドボールの聖地ともいべき場所での開催となります。

出場するのは全国9ブロックの各地域予選を勝ち抜いてきた男女各23チーム、総勢46の強豪チームです。各チームは頂点を目指し、これまでの練習の成果でぶつかり合う中学生のダイナミックで躍動感溢れる熱戦のプレーが楽しみです。



氷見市立西條中学校 ハンドボール部 提供

表紙について

暑い日が続く中、涼を求めて富山市にある常虹(とこにじ)の滝へ行ってきました。蛇歯見(じゃばみ)の滝、五色の滝、二筋の夫婦の滝、不動滝の五本からなる細入地区最大の滝で常虹の滝の名は朝、虹が立つことにちなんでいるそうです。滝壺のすぐ脇まで下りることもでき、マイナスイオンをたっぷり浴びられます。写真は駐車場からすぐの溪流で、足を浸けて涼みました。常虹の滝の近くには、「道の駅細入(林林)」があり、鮎やイワナも食べられるため、合わせておすすめしたいスポットです。

編集後記

新型コロナが5類に移行して1年余りが経過しましたが、感染者がゼロになることはなく、今夏も第11波により感染者数が増加しました。加えて、溶連菌感染症や手足口病などの感染症も例年より増加しており、医学生であった1990年代に21世紀は感染症の時代になると予想していたことを思い出す今日この頃です。今年度は例年よりもいろいろな感染症が流行しており心配される方もおられると思いますが、必要以上に恐れず、これまで通り手洗い・うがい・手指消毒などを心がけ、健康管理に留意して日々の生活を過ごしてください。

かけはし夏号編集委員 耳鼻いんこう科 坪田 雅仁

■広報誌「かけはし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけはし」となることを願って命名されました。